

➤ 19日 火曜

箴言

27:1 明日のことを誇るな。一日のうちに何が起るか、あなたは知らないのだから。

27:2 自分の口ではなく、ほかの者にあなたをほめさせよ。自分の唇ではなく、よその人によって。

27:3 石は重く、砂にも重みがある。しかし、愚か者の奇立ちはどちらよりも重い。

27:4 憤りは残忍で、怒りはあふれ出る。しかし、ねたみの前には、だれが立ちはだかることができるだろうか。

27:5 あからさまに責めるのは、ひそかに愛するより良い。

27:6 愛する者が傷つけるのは誠実による。憎む者は多くの口づけでもてなす。

27:7 満ち足りている者は蜂の巣の蜜も踏みつけ、飢えている者には苦い物もみな甘い。

27:8 自分の巣を離れてさまよう鳥のように、人は自分の家を離れてさまよう。

27:9 香油も香も心を喜ばせる。友の慰めは自分の考えにまさる。

27:10 あなたの友、あなたの父の友を捨てるな。あなたが災難にあうとき、兄弟の家に行くな。近くにいる隣人は、遠くにいる兄弟にまさる。

27:11 わが子よ、知恵を得よ。私の心を喜ばせよ。そうすれば、私をそしる者に、私は言い返すことができるだろう。

27:12 賢い人はわざわいを見て身を隠し、浅はかな者は入って行って痛い目にあう。

「明日のこと」はわからないものです。どんなに自信があっても、謙遜でありましょう。

「ほかの者にほめさせよ。」とあります。自画自



賛はあまり効果はありません。むしろマウントをとりたいのか、自慢したいのかと思われて印象が悪くしますから、そのような自分に気づきましょう。

「ねたみ」に気をつけ、ねたみを葬り去り、ねたみを悔い改めましょう。それによって、他の人もその人自身のねたみに気づくでしょう。

「あからさまに責める」ことも時には必要です。その場合「愛する者」として、責任と自己犠牲の決心をするくらいに、その人のことを大切にしましょう。責めるときには、人前かどうかに関して配慮が必要ですが、本人によく分るように、愛を持って指摘することが必要です。そのように信頼関係で交われる信仰の友は、大切です。慰める者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

